

社会福祉法人 雲柱社 かがわの家
令和7年度 第1回 地域連携推進会議 議事録

1. 開催日時

令和8年1月23日(金)13:00～15:00

2. 開催場所

かがわの家 ソレイユ（小金井市関野町1-5-1）

3. 出席者

- ・利用者代表 推進員 A・推進員 B 2名
- ・ご家族代表 推進員 C 1名
- ・利用者成年後見人 推進員 D 1名
- ・地域の関係者 ソレイユ地域代表 推進員 E 1名
 スバル地域代表 推進員 F 1名
 シリウス地域代表 推進員 G 1名
 ベガ地域代表 推進員 H 1名

- ・かがわの家 施設長 1名
 職員 8名

4. 議題

- (1)地域連携推進会議についての説明
- (2)かがわの家 概要説明
- (3)活動報告
- (4)事故報告
- (5)虐待防止委員より
- (6)防災についての取り組み
- (7)質疑応答

※施設見学は会議開催前に各ユニット実施済み

5. 配布資料

- ・地域連携推進会議の手引き
- ・かがわの家 パンフレット
- ・スライド資料

6. 議事

①開会の挨拶、地域連携推進員・職員の紹介

②地域連携推進会議の概要→スライド（資料）にて説明

- ・今年度より開催が義務化。地域共生の推進、サービスの質向上や透明性の確保などを目的として開催。

③共同生活援助・障害についての説明。→スライド（資料）にて説明

④かがわの家概要→スライド（資料）にて説明

・ユニット紹介

雲柱社の事業展開についての紹介。

2001 年 シリウス開設。2003 年 ベガ・ミラ・カペラ開設。（→ミラ・カペラは老朽化により建て替え。現在はスバル。）2006 年 ジュピター開設（→現在は事業所が分かれている。）2012 年 ソレイユ開設。2015 年 スバル開設。

- ・平均年齢：スバルⅠ43 歳。スバルⅡ47 歳。シリウス 52 歳。ベガ 57 歳。ソレイユ 65 歳。ソレイユⅡ60 歳。ソレイユⅢ44 歳

- ・支援区分：区分 6 の方が 20 名。全体的に重度の方を受け入れている。

- ・障害特性に合わせた環境設備について。二重窓の設置。電気スイッチの設定位置。視覚的に分かりやすい環境設定など。

⑤かがわの家紹介→スライドでの写真紹介。

- ・グループホームでの過ごし方、行事の紹介。毎月行事を行い、四季を感じられる取り組みを開催。今年度はディズニーリゾートへの特別外出を行った。

- ・利用者アンケートの実施。今年度は外出メインでアンケートを行い、カラオケや外食を実施。今後も利用者さんの希望を叶えていけるよう継続していきたい。

⑥事故報告→スライド（資料）での説明。

- ・事故発生時の対応について。ミーティングで支援方法の見直しや再発防止策の検討などを実施、関係機関との連携を強化していきながら再発防止に努めていきたい。

- ・ヒューマンエラーで起きてしまうことが多く、0にするのは難しい。

- ・（推進員 G）：事故の分析のため、定期的に何をしている？

→（職員）：月に 1 回ミーティングを開催して、予防できるよう対策を検討している。

⑦虐待防止についての取り組み→スライド（資料）での説明。

- ・虐待防止法（2002 年施行）に基づいた説明。虐待防止委員会の設立を行い、年 1 回の

虐待防止研修を開催。

- ・グレーゾーンに当たる支援をスタッフで共有。例えば、居室に入る時に、利用者の許可なく入室してしまった、という場面。難しい場合もあるが違和感をそのままにしていると虐待へとつながる恐れがある。

- ・排泄介助の際、付き添いを最小限にできないかという議題で検討を重ねている。職員の都合で決めてはいけない。プライバシーに配慮した支援を行っていきけるよう、ミーティングを行っている。

→小さな出来事（グレーゾーン）の積み重ねが虐待へとつながってしまう。各職員個人の感覚、価値観のズレを確認し、方向性を揃えるようにしている。

⑧防災の取り組みについて→スライド（資料）での説明。

- ・月1回の避難訓練開催。
- ・立川防災館での防災訓練を、職員が研修として行う。
- ・災害用伝言ダイヤルの使用。

→ネットや電話で伝言を残すのが難しいご家族もいるため、災害時の対応について個別で確認している。

- ・防災備品の準備や防災食の提供。利用者の方が食べやすいような防災食を、個別に揃えている。

- ・BCPの策定。
- ・日中事業所とも連携し、災害時の対応を検討している。

→受援力を高めていく。（助けてほしい時にアピールできるようにする力。地域での関わり、つながりを強化していく。）

⑨質疑応答等

- ・参加者の自己紹介・所属・見学の感想等

推進員D：成年後見人として西東京市の社協より参加。温かい対応をしていただき感謝している。言葉で伝えられない方々の意思決定支援のお手伝いを今後もしていきたい。

推進員C：利用者ご家族。コミュニケーションをたくさんとってくださり、意志を組んでくれて感謝している。自立を促してくれる、できることが増えて嬉しい。

推進員F：スバル地域代表。以前地方の民生委員を担っていたことがある。施設入所にはあまり良いイメージがなかったが、このように地域での生活が広がっていき嬉しく思う。

推進員H：ベガ地域代表。ベガ利用者の通う美容師。病院訪問なども行っているが、その方もグループホームに入所できればもっと生活が広がると思った。ベガも住みやすそうで、職員の雰囲気も良かった。

推進員E：ソレイユ地域代表。地域とのつながりがもともとあった関係で、ソレイユ近くで開業している。素敵な雰囲気が流れていると思った。つながりを持てる会に参加できて

よかった。

推進員 G：シリウス地域代表。グループホームの名称は聞いていたが、実情は分からなかった。この度参加できてよかった。今後も何かあれば協力していきたい。地域でのイベントにぜひ参加してもらえたら。

・質疑応答

推進員 H：入所した際の金額を知りたい。

施設長：家賃、光熱費、家賃等。利用日数によって異なる。

推進員 C：障害年金が給付されている方が多く、その中から支払いができる程度。

推進員 G：物価上昇に伴う人件費など、調整のメカニズムがあるのか？

施設長：利用者負担額が増えていく。国や行政から補助が下りる場合もある。例えば眠りスキャンは補助金が出ており、そのような制度を使用しながら運営している。

職員：利益がでるような仕組みはない。

推進員 G：我慢しないといけないこと、職員・利用者で出てきてしまう？持続性がないので、退職される方も出てきてしまうのではないか。利用者も満足できる生活を送れなくなるのでは？

施設長：福祉業界の賃金は低く設定されている。グループホームは 24 時間 365 日稼働している。労働基準法に順じて行っているが、職員への負担は多いのではないか。職員がやりたいと思ってくれているので、離職率は低いのかも。

推進員 G：外国人労働者は増えてきている？

施設長：障害児・者ブロックの会議内では、外国人労働者の受け入れの検討も行っている。現状は難しい。今いるスタッフの負担が増えてはならない。

推進員 E：旅行、外出の付き添いはどのくらいで行っているのか。

施設長：場所によっても異なるが、今年度のディズニー外出は手厚く行った。

職員：ユニットの特性を考慮して、行事外出を行っている。組み合わせも考えている。

推進員 D：ボランティアは受け入れているのか。

施設長：ボランティアの受け入れはあまり行っていない。希望者がいれば検討。

推進員 G：ボランティアを行うために必要な資格は？

施設長：勤務を行う上で資格取得は必須ではないので、特に問わない。人がお好きな方に入っただけいたら。

推進員 C：地域の方から温かいお話を聞けて嬉しかった。

推進員 F：最近は社会的にも、障がいに対しての理解が増えた気がしている。公民館で行

う「みんなの会」でのボランティアを募集している。ぜひ興味があれば来てほしい。

⑩閉会の挨拶

- かがわの家の平均年齢 52 歳。ご家族も高齢化が進んでいる関係で、利用率も年々増加している。昨年度末はお看取りを経験した。支援の幅が広がっている。
- 訪問診療・看護・調剤・理容など様々な関係機関が協力してくれている。
- 50 名弱のスタッフが毎日の生活を支えてくれている。地域との関係を厚くしていくことで、緊急時にも助け合えたら。
- 利用者の方々のより良い支援のために精進していきたい。